

## 議題名 「“モヤモヤ” の無いように

### 互いの考えを伝え合い、議題を決めよう。」

第 6 学年 学級活動 (1)

#### ◆ 本実践の概要

話し合いを通して、児童の建設的な態度の向上を目指す。日常生活を振り返り、過ごしやすい学級にするために必要な事柄について ICT を活用して協働的な学習を仕組む。

#### 1 議題について

議題名「“モヤモヤ”の無いように互いの考えを伝え合い、議題を決めよう。」

学級活動(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

#### 2 学級活動(1)の育成で目指す資質・能力

- 学級における集団活動や自律的な生活を送ることの意義を理解し、そのために必要となることを理解し身に付けるようにする。
- 学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- 学級における集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

#### 3 第 5 学年及び第 6 学年の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学級における集団活動に進んで参画することや意識的に健康で安全な生活を送ろうとするなどの意義について理解するとともに、そのために必要となることを理解し身に付けるようにする。	学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。	学級における集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

#### 4 議題設定の理由

これまで児童は最高学年としての役割を果たす中で、居心地のよい学級があることが励みとなり、勇気を得られる場所であるということを実感してきている。6年生も後半になり、卒業に向けて学級のよさを再認識したり、不安や不満を共有し、解決したりすることがよりよい学級にしていくことにつながっていくと考える。

そのために、学級力アンケートを日々の生活を振り返るきっかけとして活用し、今の自分たちの学級を見つめ直すことで、よりよく過ごしていくために必要なことを議題として設定していく。計画委員会での事前の議題選定ではなく、全員が参加した学級会での議題は、学級の問題をより自分事として捉えることができるのではないかと考える。

## 5 本時までの活動の流れ

### (1) 評価と指導の計画

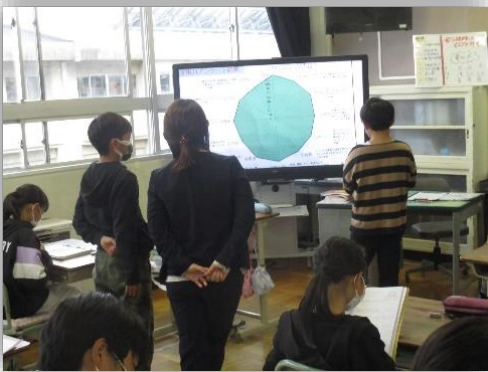
日時	児童の活動内容	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
5月	学級活動 ○第1回学級力アンケート実施	アンケート項目の捉え方を共通確認し、第1回目のみ教師による読み上げを行う。回答する児童は、自己評価の理由を解答用紙に簡単にメモしておく。	日常をよりよくしていこうとする意識をもつ。 【主体的態度】(観察)
6月	学級活動 ○第1回学級力アンケートの分析と議題の設定	事前に学級役員と打ち合わせを設け、分析方法や話合いの意図を確認しておく。話合いの方法については、必要に応じて児童が工夫・選択できるようにする。 1人1台端末:学習支援ソフト	自分の意見を進んで伝え、議題を生み出そうとしている。 【思考・判断・表現】 (アンケート回答用紙・観察・1人1台端末)
8月	学級活動 ○第1回学級力アンケートの分析以降の具体的な取組についての振り返り	選択・決定し、実行した事柄を改めて振り返る時間とする。 付け加えや工夫、変更などの見直しを行う。率直な意見を取り入れていくことに価値があることを伝える。 1人1台端末:学習支援ソフト	役割についての責任と他者への感謝をもち、自分達がやっていることがクラスをよくしているということを理解する。 【知識・技能】 (1人1台端末)
9月	学級活動 ○第2回学級力アンケート実施	第1回アンケートをファイリングしておく、比較可能とする。 問題提起したい項目や日々の活動から変化した点など、特化した内容を重点的にメモさせる。	日常をよりよくしていこうとする意識をもとうとしている。 【主体的態度】(観察)
10月 本時	学級活動 ○第2回学級力アンケートの分析と議題設定	日常が「卒業」につながるということを意識した話合いになるようにする。話合いの方法については、必要に応じて児童が工夫、選択できるようにする。 1人1台端末:学習支援ソフト	話合いの仕方を理解して活動している。 【知識・技能】(観察) 自分の意見を進んで伝え、議題を生み出そうとしている。 【主体的態度】 (アンケート回答用紙・観察・1人1台端末)

11月	学級活動 ○第2回学級力アンケートの分析以降の具体的な取組についての振り返り	選択・決定し、実行した事柄を改めて振り返る時間とする。 付け加えや工夫、変更などの見直しを行う。率直な意見を取り入れていくことに価値があることを伝える。 1人1台端末:学習支援ソフト	役割についての責任と他者への感謝をもち、自分達がやっていることがクラスをよくしているということを確認する。 【知識・技能】 (1人1台端末)
12月	学級活動 ○第3回学級力アンケート実施	2学期末に行う。3学期のスタートに向けて、卒業において最後のアンケートとなることを児童に伝える。	日常をよりよくしていこうとする意識をもとうとしている。 【主体的態度】(観察)
1月	学級活動 ○第3回学級力アンケートの分析と議題設定	卒業においてあるべき自分たちの姿を考えさせる。	自分の意見を進んで伝え、議題を生み出そうとしている。 【主体的態度】(観察)
2月	学級活動 ○キャリア・パスポート作成	振り返りを通して、自己の成長に気付かせる。 ※学活(2)現在の自分を見つめ自己の成長を考える	キャリア・パスポートに記述し、これまでの自分を振り返ろうとしている。 【主体的態度】(観察)



## (2) 本時の指導と児童の活動

### 本時のねらい

学級を居心地よく過ごす場所にすることを目指し、話し合う議題を設定することができる。

	主な活動と児童の反応	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
つかむ 5分	1 はじめの会 ・話し合いの目標を確認 ・親和的な感情を写真で想起させる。 ○全員が納得するように議題の決め方についても話し合う。	・話し合いのねらいを確認する。	
共有 決定 35分	2 話し合い (1) アンケート結果の考察 	・時間設定に関わる助言をする。 ・実態の把握が分かりやすくできるように、チャートを印刷し配布したり、大型モニターで示したりする。	・話し合いの仕方を理解して活動している。自分なりの考えをまとめ、伝えている。 【知識・技能】(観察)
			・自分の意見を進んで

1学期から作成している学級力アンケートのレーダーチャートで学級の課題を共有する。

	<p>(2) 議題をどのように絞っていくのか話し合う。</p> <p>○レーダーチャートを分析し、自分が課題だと思ふ項目について話し合う。</p>  <p>(3) 議題の決定</p>  <p>3 決まったことの確認</p>	<p>・必要に応じて ICT を活用できるようにしておく。(意見集約の場面)</p> <p>個別最適な学びの場面で ICT を活用した。他教科でも使用し、協働学習で効果を実感している。</p> <p>「レーダーチャートで時間の部分がへこんでいるので、時間が課題だと思ふ。」「上下関係はないんだけど、意見が言いにくい時がある。平等について話し合いたい」など生活経験とレーダーチャートを結びつけている。</p> <p>・一人一人の率直な意見と、合意形成した意見をできるだけ多く取り上げるようにする。</p> <p>・絞れない場合は、複数のものをまとめることも可能であることを伝える。</p> <p>・決まった議題と今後の話し合いの予定について確認する。</p>	<p>伝え、議題を生み出している。</p> <p>【思考・判断・表現】 (回答用紙・観察・1人1台端末)</p> <p>・互いの意見を取り入れ考えを生み出そうとしている。</p> <p>【主体的態度】 (観察)</p>
<p>おわり 5分</p>	<p>4 個人の振り返り 5 おわりの会</p>	<p>・活動を振り返る。</p>	<p>今後の具体的な取組について考える。</p>

## 6 実践を振り返って

日常生活の中から、議題を見いだすという活動を大切にしている。自らの生活を自らの手でよりよくしていこうと思う気持ちが不可欠であり、児童の自治的能力の向上の基礎となる。特別活動でも個別最適な学びと協働的な学びの一体化は、学習意欲の喚起、多様な考えと出会い、思いの深まりが見られ、人間関係形成、社会参画、自己実現につながっていくと考えられる。

また本実践では協働的な学習を具現化するのに、ICT(1人1台端末の学習支援ソフト)の活用が有効であった。児童自らが操作できることを前提に、記録したり比べたり思考ツールを使用したりすることも可能である。